（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス　からふる

公表日　　R7 年 5 月 20 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・利用人数が多い時は、訓練室と学習室に分けて活動に取り組めるよう配慮している。 ・動線を考えての配置にしている。	・暑天候の時、室内で過ごす時間が増える為、スペースが広いと過ごしやすいかなと感じる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6			・職種の問題はないが、男性職員が常に居て欲しいと感じる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・タイムスケジュールや見える化を取り入れ視覚的に分かるよう取り組んでいる。 ・写真や絵カードを使用し特性に応じた対応をしている。	・壁を有効活用して欲しい部分があるが、建物上出来ない状況である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども通の活動に合わせた空間となっているか。	6		・手指消毒以外でもアルコール消毒や次亜塩素酸ナトリウム（ミルトン）による消毒も徹底している。	・上手く空間を活用して活動が出来るよう、移動しやすい家具を使用している。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・個室がある為、対応することは出来ている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		・面談や相談時間を用いて改善策を考察し、動きやすい環境を与え行うことを繰り返し取り組んでいる。	・改善した部分をそれぞれが評価出来るようになる必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・全職員で見直して共有し、改善が必要な部分と継続して行う部分を明確にし対応できるように取り組んでいる。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・日々の見直しや申し送り、情報共有を行うことが出来るように取り組んでいる。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		・関係機関等との情報共有も行い、繋げるように取り組んでいる。	・関係機関等との会議で新たな課題等が発生した場合は、素早く対応かつ敏速な対応を行っていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・決められた研修には取り組むことが出来ている。	・それぞれが意欲的に研修に参加出来るようになる必要がある。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・毎月の活動予定にも反映させることが出来ている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析し上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		・情報共有を行いながら児童発達支援管理責任者が作成している。	・児童に関わる関係機関との連携の強化、理解度の強化に努め、いろんな方向からの計画支援が必要である。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最高の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・日々の情報共有と、職員会議の中で検討会を行うことが出来ている。	・検討会議をもっと増やせるよう業務改善が必要である。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	6		・新たな課題が発生することもあるが、その都度共有を行い、保護者とも連携を図ることが出来ている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・システムを使用し取り組むことが出来ている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、そのよて、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・立案をリーダーへ提出し、責任者と一緒に検討会議を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・毎月考察しながら対応している。 ・障害に関わる活動内容を考え活動プログラムを提供している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		・個別に適したもの、集団活動に適応するためのものを取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・口頭で共有したり、LINEで動画共有をして全員で取り組むことが出来るように対応している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		・朝会時間、共有時間を設けていることと、LINEで情報共有を行いながら考察することもある。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・日録としてシステム内に記録を残している。	・記録に時間がかかってしまう為、改善法を検討中。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・児童発達支援管理責任者が行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		・活動プログラムの中に取り入れて対応している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		・常に連携を図っている。 ・必要に応じて、情報提供書の作成も行いより詳しい内容で連携を図ることが出来るよう取り組んでいる。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		・担当と責任者の両者で確実に連携が取れる態勢を整えている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			・該当児童の利用があれば、対応していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	6		・外部研修へ参加している。	・多職種の職員もいろんな研修へ参加出来るように取り組む。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		・地域の行事活動へ参加した際に、一緒に遊んだりする時間が確保できている。	・今後も、たくさん関わることが出来る場での活動プログラムを計画していく必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		・市や県で行われる会議へは積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・送迎時やTEL、LINE等の手段で共有を行うことが出来ている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		・家族支援として助言を専門的に行いながら、他のサービス情報の共有を発信することを行っている。	・周辺の事業所の方と情報交換を行える関係性を作り、研修の機会などを提供できるようにする必要がある。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最高の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・TEL、LINE、面談を通して素早な対応を取り入れている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6		・食事会、親子クッキング等を行い お互いに交流できる取り組みを提供した。	・今後も交流会を取り入れながら、座談会等やっくり関りが出来る時間を確保できるような取り組みを行う必要がある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・その都度対応を行うように取り組んでいる。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		・LINEを使用し、連絡や報告を行っている。	・連絡体制として、LINEとTELは継続し、HPやSNSの体制が整ってきているので、少しずつ発信して行けるように取り組んでいく必要がある。
	43	個人情報の取扱いに十分配慮しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6			・地域行事へ招待されることが殆ど参加はするも、事業所の行事へ招待をしたことがない。今後は交流を図ることが出来る企画案を計画する必要がある。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			・職員以外の家族等に分かりやすいように状況を伝えて行く必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			・その都度詳しく発信していく必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		・薬剤、服用薬など体調の変化、定期受診後等に保護者と連携を図り把握するよう取り組んでいる。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分されたの中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		・ヒヤリハット申し送りノートを活用し、検討、再発防止の対策について共有を行うことが出来ている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・責任者は、ニュース等も確認し職員間でシェアをしたり、研修会を行い対応している。	
	54	どのような場合にやめを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6			